



みなみさわ とも のり  
南澤 智規

生年月 1988年8月千葉県生まれ  
最終学歴 2015年東京工業大学大学院  
理工学研究科建築学専攻  
修了  
業務経歴 2015年(株)昭和設計入社  
現在 建築設計部主任  
●担当した主なプロジェクト  
2016年 BRANCH松井山手  
2017年 西脇市新庁舎・市民交流施設  
2019年 東京応化工業相模事業所C4C棟  
2020年 文教大学越谷キャンパス新棟

■青年技術者のことは

優れた建築の条件は何か。  
私は、時間が経っても愛着をもって  
利用されていることだと思っ  
ている。その建築がそれを取り巻く  
人々の生活にいかに向き合っている  
かで使われ方が変わってくる。  
優れた建築は何十年経ち利用者が  
変わろうとも、その建築を特徴づ  
けるエレメントは尊重され魅力を  
保ち続けている。

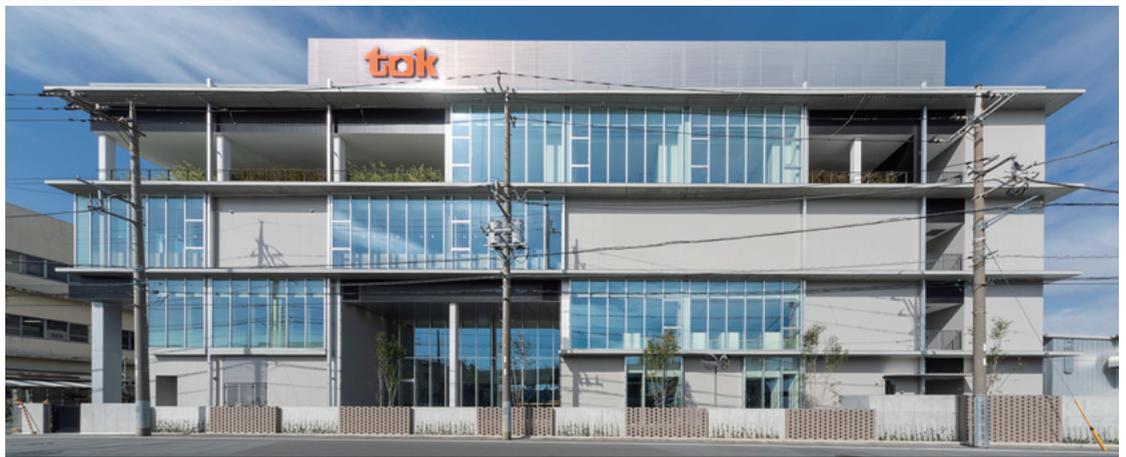
利用者と向き合うためには対話が  
不可欠である。昨今、様々な設計  
ツールの技術向上やAI技術の進化  
またはニーズの多様化により、建  
築設計の職能領域や存在意義につ  
いて模索されている。そうした社  
会状況の中でも、生の対話を通し  
て利用者の要望を上回る機能や根  
底にある魅力を見出し実現するこ  
とが、普遍的な設計者の存在意義  
であると考え。

時には設計時の想定を超える建物  
の利用に直面することも設計の面  
白さの一つである。言葉や文字  
だけでなくイメージや模型など多  
様な言語を用いた対話の仕方を模  
索していきたい。

昨年に入ってから、葬祭場や児  
童相談所といった特殊な用途に  
携わる機会も増えてきた。実際  
に取り組んでみると、建築的なア  
プローチだけでは解決できない様  
々な社会的背景や、表面上には現  
れない当事者が抱えたままの問題  
が多々あることに気づかせられた。  
それらをできる限りすくい上げ、  
提案に結び付けることに挑戦し  
ていきたい。それが次に行われる  
計画の参考となり、少しでも社会  
に役立てるならば、設計者として  
これほど誇らしいことはない。目  
前の利用者とともに、少し視野を  
広げて社会全体を見据えた提案が  
できる設計者をめざしていきたい。

■すいせん者

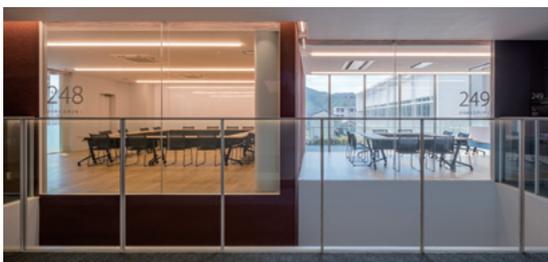
大野 晶  
(株)昭和設計 東京事務所  
建築設計部 部長



東京応化工業相模事業所C4C棟



文教大学越谷キャンパス新棟



西脇市新庁舎・市民交流施設